第１回山古志復興新ビジョン研究会全体会議　議事概要

1.日　時　**平成１６年１２月１８日（土）１３：３０～１６：３０**

2.場　所　**白山会館**　1F **芙蓉**

3.議事概要

（１）山古志村復興への想い（省略）

・山古志村村長　長島　忠美

（２）挨拶（省略）

・社団法人　北陸建設弘済会理事長　和田　惇

（３）委員長・アドバイザー挨拶（省略）

・委員長　　新潟経済同友会 筆頭代表幹事　　江村　隆三

・総合アドバイザー　NPO **法人 防災情報機構　会長　　伊藤　和明**

（４）出席者紹介（省略）

（５）研究会の概要説明（省略）

（６）.山古志村の復興新ビジョン策定方針の検討

・事務局より、パワーポイントで説明。

・丸井委員より、主に芋川河道閉塞の状況について補足説明。

・意見交換

（西澤委員）

山古志の住民は、持ち家を復旧して再びもとの土地で生活したという想いが強いように思う。やはり復興ビジョンを策定するには住民の意見を早めに聞くことが良いのではないか。そういう意味でも、事務局から提示された住民が集中する②集中街区形成方式（ニュータウン型）は考えにくい。

（丸山（結）委員）

山古志の特徴は自治にあり、地区の助け合いなどコミュニティーの強さが山古志らしさだと思う。この地域性を崩さないためにも可能な限り、地区毎に住めるようにすべきである。あの地に戻ることはたぶん無理だろうと考えている人もおり、潔さも同時に持っている。ただ、できるだけ今まで住んでいた近くに住みたいという思いはあるようだ。

（松本委員）

復興計画づくりは、人口、年齢構造等を考慮するべきである。また虫亀や種苧原地区の住宅の被害などはわかるが、生産の場の棚田などの被害がわからないので調べてもらいたい。

（平井委員）

今までのように生活できる復興ビジョンとこれまでとまったく異なる新しい生活を提示するのでは、住民の受け止め方がまったく異なる。住居と産業の問題をマトリックスで提示すると論点が明確になると思う。

（深澤委員）

山古志村は小さな集落の集合で形成されており、ペリーの近隣住区論などを当てはめて計画できないことは明らかで、根本的にこの地域に根ざした新たな復興計画を考え直さないといけない。

（金子委員）

住居の問題の前に産業の議論が先ではないか。棚田などを産業として残すのかどうか大きな議論になる。棚田は生産量で言えば効率の悪い田んぼと言え、棚田を文化遺産として残すことなども考えられる。

（上村委員）

①被災前復元方式（現在地型）と③分散街区形成方式（サテライト型）のハイブリッドになるのではないか。例えば、虫亀や種苧原地区など比較的被害の少ないところは復旧し、その他の地区は、③サテライト型のように。

（丸山（暉）委員）

住民の意見を尊重することはもちろんであるが、災害に強い地域づくりという視点も大切なことである。また復興計画を策定する際には、年齢構造等、人口に関する情報は重要で、将来を見据えた計画づくりをしなければならない。

（丸井委員）

今回の地震で地すべりが多発しており、一斉に復旧することは難しい。復旧は、被災の軽微なところから優先的に行うことになるのではないか。

（伊藤委員）

住民は今冬仮設住宅生活をしている間に、本当に村に戻るのかどうか悩むだろうが、アンケートをどの段階で行うのか、また属性によっても意見が異なってくる。

今回の復興ビジョンを日本の中山間地の復興モデルとするなら、①被災前復元方式（現在地型）を基本とし、コストが障害となるのなら、どのようなコストがかかるのか検討すべきである。かけるべきコストもあるのではないか。

（吉沢委員：熊谷委員の代理）

復興ビジョンには、コストとスケジュールが重要であり、その２つをイメージできるものが良い。災害の凄さを視察に来る人たちが必ずいる。部分的に「戻さない」という選択肢もあるのではないか。

（澤田委員）

1999 年 9 月に起きた台湾地震では、その後の大雨で土砂流災害が多発し生活できなくなった例があり、山古志においても安全の担保が難しい。現在悩んでいる人達に戻ってきてもら

うためにも時間軸を入れた復興までのロードマップが必要である。

（伊藤総合アドバイザー）

復興計画を策定する前提として、まだ災害が終わっていないことを認識する必要がある。雪崩の危険性や大雨による土砂崩れなど二次災害を見据えた復興ビジョンが必要となる。

ケーススタディとして、「奥尻島（大津波）」と「雲仙普賢岳（火山）」、「三宅島（火山）」に関する復興計画のメリット、デメリットを調べてもらいたい。

（事務局）

３つのケーススタディについては早急に調べる。またアンケート調査においては、世帯構成や生業など現況を調査する。そこで、1 月中旬の分科会の開催前に、伊藤総合アドバイザー、江村委員長、各分科会座長にお集まりいただいて円卓会議を開催し、アンケート調査を設計するにあたってのご相談をさせてほしい。

3 月上旬から中旬には、「山古志復興新ビジョン」の中間報告をすべきと考えている。

（松本委員）

住民アンケートはもちろんだが、区長へのヒアリング調査も行ったほうが良いと思うが。

（澤田委員）

区長へのヒアリングは可能だと思う。

（伊藤委員）

既存の法律が復興再建の壁になっていると聞いているが、現実を考えた場合、法律の壁を踏まえるべき。今回の山古志をモデルに、研究会から問題提起があっても良いのではないか。

（７）.今後のスケジュールについて

・「（６）.山古志村の復興新ビジョン策定方針の検討」内で、事務局から説明。

（８）その他

・事務局から、研究会のホームページの開設について説明。

閉会

（文責：事務局山口）